

2024年7月 佐伯通信 【熱海だより】

2024年7月 佐伯通信 【近刊予告】



近江八幡の京街道標石

三万日余の人生

佐伯通信

2024年7月(令和6)
第68号
発行 佐伯泰英事務所
担当 文藝春秋
禁・無断転載

女房どのが留守をするという。家に残された私と飼犬のみかんは娘を誘って旅へ出ることになった。まずはみかんの泊まれる宿さがしだ。すると琵琶湖に面して犬連れOKのホテルがあるという。巡ってきた桜の季節に偶々か当たり、花見道中となった。到着したホテルでは、みかんはカートに

乗せられて部屋に入り、落ち着いたところで湖畔を散策した。夕餉の刻限、食堂に行く、どの席も小さく、さまざまな犬連れの客でいっぱいだった。犬たちも場の雰囲気を感じてか、マナーを心得ているのか、実に大人しく無駄吠えするペットはいなかった。翌日、船を借りて、琵琶湖最大の内湖「西の湖」を航路で探索し、満開の桜の下でホンモロコを狙う釣り人たちの姿を満喫した。この日は二度も船に乗ることになった。豊臣秀次が築いた

佐伯泰英 / 近刊のお知らせ

~~10月~~※
2025年新春刊行に変更します。

8月
7日

《文春文庫》
「助太刀稼業」
3
「タイトル未定」

《光文社文庫》
「芋洗河岸」
4
「タイトル未定」

《文春文庫》
「助太刀稼業」
2
「もどき友成」

※佐伯通信「第69号」が入ります。
初版の初回出荷分のみ読み込み

※発行日は予定です。



PCやスマホでも / 佐伯作品が電子書籍で読めます!



2024年7月 佐伯通信 【PR】

2024年7月 佐伯通信 【熱海だより】

文春文庫局長 大沼貴之
昨年刊行「柳橋の桜」シリーズで編集部は、佐伯作品の背色を黒から別の色に替えるという「挑戦」をしました……なんていいますと「何をおおげさな」とお叱りを受けそうですが、同一筆者の背色を替えるのは文春文庫(おそらく)初の試みです。
黒の背色は存在感がある一方で、シリーズの違いがわかり難いという一面もありました。そこで「柳橋の桜」では四季にちなんだ四色のカバーと背色に決定、その効果か、棚で目立つことはもちろん、四冊平積みにして下さる書店も多く見かけます。
「助太刀稼業」では「読者の方を圧倒する力強さを」という佐伯先生の声に励まされ、このようなカバーとなりました。よろしければ、作品とあわせてカバーのご感想も教えていただければ幸いです。

たという城下町近江八幡の素晴らしい石垣に囲まれた御堀を船にて見学したからだ。こちらは、船頭さん曰く、日本一遅い手漕ぎの和船だ。満開の桜がはらはらと散るなか、みかんも一緒にゆらゆらりと船遊び、いえ、優雅な取材でした。
旅に出る前、私が生誕して三万日を迎えたという情報が入り、スマートフォンを通じて知らされた。な、なに、八十二年余り生きておると三万日になるか。ならば、と東近江市にある臨済宗永源寺派大本山永源寺を訪ねた折りに、生誕三万日を祝うとともに

感謝(いつもより賽銭が少しばかり多め)申し上げた。この永源寺、神仏霊場巡拝の道一四〇番の古刹である。紅葉の季節が最高というが、新緑の愛知川もまた爽やかでございませう。
さて文春文庫の新シリーズ「助太刀稼業」の二巻目「もどき友成」は八月に、三巻目(題名未定)は九月を飛ばして刊行予定です。さらに光文社文庫「芋洗河岸」は三巻「未だ謎」で完結編と謳いましたが続巻を書くことに。登場人物と別れたいのも老いゆえか?

夏の短期集中(新)シリーズ 刊行開始!
助太刀稼業
青年剣士を描く 痛快エンタメ!
7月、8月、10月に発売
全3巻

※ 2025年新春刊行に変更します。

2024年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が光文社、(株)文藝春秋の協力のもと発行します。

大好評につき待望の新刊10月刊行決定!
その侍、剣の達人——
この読み応えが、佐伯泰英。
芋洗河岸
1「陰流苗木」 2「用心棒稼業」 3「未だ謎」